

1 モデル事業対象地域の現況

消防本部	人口（人）	面積（km ² ）	非常備町村を含む県内の広域化等の検討状況
徳島市	254,510	191.39	○徳島県消防広域化推進計画に基づき、県内1消防本部を目指しつつ、県内5ブロックにおいて、生活圈を一にする隣接地域等と連携・協力の推進による段階的な広域化を推進 ○過疎地域である非常備3町村を有する県東部地域の関係市町村で構成する消防体制のあり方検討会で、令和元年10月から非常備の解消に向けた検討を実施
小松島市	55,264	45.30	
非常備3町村 (勝浦町、上勝町、佐那河内村)	8,236	221.71	



2 現状・課題、モデル事業の内容

現状・課題	モデル事業の内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化に伴う救急需要の増大、激甚化及び頻発化する大規模災害への対応を図るため、3町村の消防非常備の解消や消防指令センターの共同化を目指しているが、その方式、組合せなど、最適な手法を検討する必要がある。 ○ また、広域化に伴うメリット及びデメリットの整理を行う必要がある。 	<p>外部への調査委託により、以下の内容について検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 非常備3町村の消防需要を予測し、常備消防化・広域化の必要性について分析 ② 広域化の方式や組合せを複数分析し、それぞれのメリット・デメリットを整理 ③ 先進事例を参考に、各町村の費用負担等を分析 <p>○事業期間：令和2年7月～令和3年2月 ○事業費：2,000千円</p>

3 成果及び今後の展望

成果

- ①：人口減少に伴う財政状況の見通し、高齢化による救急搬送人員の増加に伴う救急体制整備の必要性などデータに基づく分析の結果を踏まえ、広域化による消防非常備の解消が必要だという結果を得た。
- ②③：県東部地域の常備2市、非常備3町村の状況を踏まえ、広域化の方式や組合せを以下に示す4パターン分析し、それぞれのメリット・デメリットを整理した上で、①が最適な手法であるという結果を得た。

広域化の方式及び組合せ	考察
①徳島市に小松島市、勝浦町、上勝町及び佐那河内村が事務委託	・徳島市及び小松島市にとっても行財政上の効果及び消防力の強化につながり、②の一部事務組合設置と比較し経費及び事務負担も小さい。しかし、徳島市以外の市町村が消防行政に意見を反映させるため、会議体の設置など代替手段を検討する必要がある。
②5市町村で一部事務組合を設置	・徳島市及び小松島市にとっても行財政上の効果及び消防力の強化につながる一方で、5市町村の地域性が大きく異なるため合意形成の迅速性に欠ける可能性があり、また組合議会設置等組織運営に係る経費及び事務負担の増加が見込まれる。
③佐那河内村が徳島市に、勝浦町及び上勝町が小松島市に事務委託	・勝浦町、上勝町及び佐那河内村については、それぞれ非常備解消につながり公設消防のサービスを受けることができるようになるが、徳島市及び小松島市にとってはメリットが少ない。
④勝浦町、上勝町及び佐那河内村が一部事務組合を設置	・非常備解消にはつながる一方で、消防署所や消防指令システム等の整備に係る多額の初期経費の発生や、組合議会設置等組織運営に係る経費等を踏まえると、この中で経費及び事務負担が最も大きくなる可能性がある。

⇒いずれのパターンであっても、徳島市及び小松島市の現状の署所配置では、消防車両が勝浦町、上勝町及び佐那河内村に到着するには長時間を要するため、新たに拠点（出張所等）を設置することが望ましい。

今後の展望

本モデル事業での結果を参考とし、「県東部地域における消防体制のあり方検討会」、「同作業部会」での議論を深め、合意形成に向けた取組みを進めていく。

令和8年度までに3町村の非常備解消を目指す。

※別途検討している消防指令センターの共同運用と併せて進めていく。

【連絡先】徳島県消防保安課 088-621-2284